昭和28年２月20日第三種郵便物認可　毎月１回１日発行
令和４年９月25日印刷　令和４年10月１日発行　第70巻第10号　通巻第832号

不二

一般版

10/2022

第44回全国公募千字文大会成績発表

公益財団法人 日本書道教育学会

不二　一般版
2022 10月号　公益財団法人 日本書道教育学会

今月の競書課題

専門部　会友～準六段

今月の出品期間9月29日(木)～10月12日(水)必着

漢字半紙

左の語句を、半紙を縦使用、自運縦書き。（書体自由）

菊松多喜色

〈出典〉『鳴鶴作品草稿集Ⅰ』より　楊公達（宋）
〈読み〉菊松喜色多し
〈大意〉菊と松が合わさり、喜び多し。

かな半紙

岡山高蔭書『つれ〳〵くさ』臨書

課題は13ページに掲載しています。

新和様半紙

左の短歌を、半紙を縦使用、自運縦書き。（漢字・かなの書き換え自由、歴史的仮名遣いは尊重）

あた、かき日を端居して庭を見る萩の芽長きこと二三寸

〈大意〉暖かい日に、気分がよいので縁先で庭を眺めると、萩の芽が長く伸びているのに気がついた。
〈作者〉正岡子規（一八六七～一九〇二）
〈出典〉日本近代文学体系16「正岡子規集」

11月号課題予告

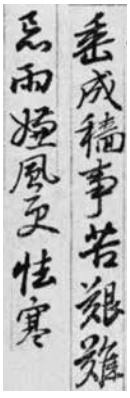
漢字半紙	弾琴復長嘯　（鳴鶴作品草稿集Ⅰ）
かな半紙	山里は冬ぞさびしさまさりける人目も草もかれぬと思へば　（古今和歌集315）
新和様半紙	籠にもりて柿おくりきぬ古里の高尾の楓色づきにけん　（正岡子規）
漢字条幅	斜日低山片月高　睡餘行薬繞江郊　（鳴鶴作品草稿集Ⅱ　范成大）
かな条幅	夕されば潮風越して陸奥の野田の玉川千鳥なくなり　（新古今和歌集643）
新和様条幅	ひようとして寒き風来る山はなに上衣いそぎ着けぬ氷沢かも　（北原白秋）

※課題及び課題の文字は変更することもあります。

漢字条幅

左の語句を、画仙紙半折（136cm×35cm）を縦使用、自運縦書き。（書体自由）

垂成穡事苦艱難
忌雨嫌風更怯寒



〈読み〉成るに垂として穡事は苦だ艱難なり。雨を忌み風を嫌い更に寒きに怯ゆ
〈大意〉農事は、もうすぐ収穫という時にひどく苦労するものだ。雨が降らないかと恐れ、風をきらい、そのうえ寒さにやられぬかとおびえねばならぬ。
〈出典〉『鳴鶴作品草稿集Ⅱ　范成大　田園四時雑興』

かな条幅

左の和歌を、画仙紙半折（136cm×35cm）を縦使用、自運縦書き。（変体がなの使用、漢字・かなの書き換え自由）

山の端に雲の横ぎる宵の間は出でても月ぞなほ待たれける

〈大意〉尾根のあたりに雲が横切る宵のうちは、せっかく待った月が出ても月の出にならず、さらにまた待たれることだ。
〈出典〉新古今和歌集　巻第四　秋歌上414　道因法師

新和様条幅

左の短歌を、画仙紙半折（136cm×35cm）を縦使用、自運縦書き。（漢字・かなの書き換え自由、歴史的仮名遣いは尊重）

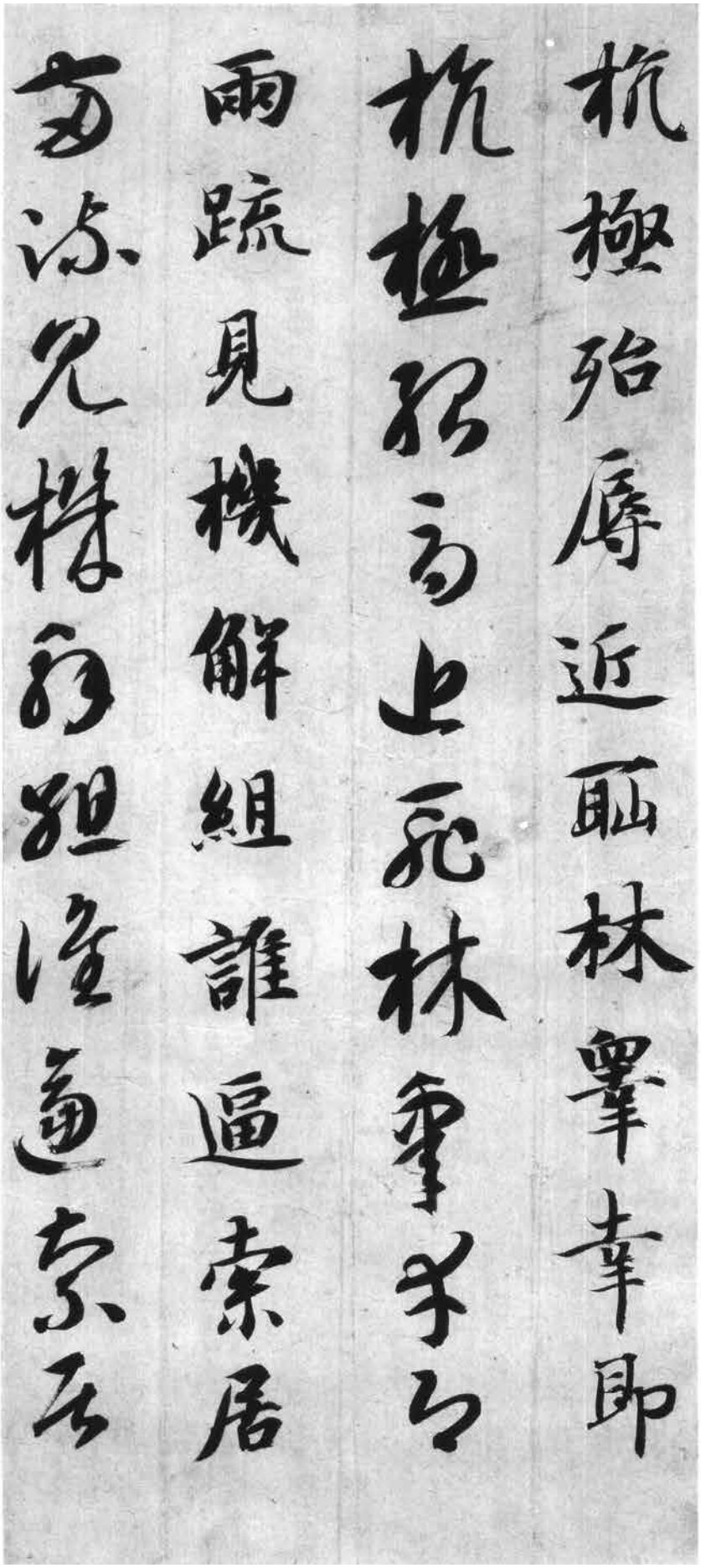
海苔の田は上潮寒き海朶の間に逆さの不二が白う明り来

〈大意〉朝の海へ小舟で行くと、冷たい海に海苔篊が並び、その向こうには雪をまとった逆さ不二が白く明るく見えていた。
〈作者〉北原白秋（一八八五～一九四二）
〈出典〉北原白秋歌集より「海阪」（岩波文庫）

海朶（篊）…海苔・牡蠣（かき）などの養殖で、胞子・胚子を付着させるため、海中の干潟に立てる枝付の竹・粗朶（そだ）、網の類。

自運＝与えられた課題語句を自運作品として用紙と筆を選び墨の磨り工合を工夫し、書作品として造型すること。それ故、先生に手本を書いてもらうことは避けたい。作品制作に当っては、古典からの集字などを試みて始めるのもよい。参考図書としては、現代字体字典（講談社）、五體字類（西東書房）、大字典（講談社）、古典かな字鑑（書藝文化新社）、広辞苑（岩波書店）、古語辞典（旺文社）などを見たい。

真草千字文（真蹟本）



（寵増）抗極　殆辱近恥　林皐幸卽　兩疏見機　解組誰逼　索居（閑處）

（寵増せば）抗極まる。辱に殆く恥に近きときは、林皐に即かんことを幸え。両疏は機を見、組を解きては誰か逼らん。索居（閑處し）

漢字半紙　専門部（五段～準初段）『真草千字文　真蹟本』より「殆辱近耻」の四字の臨書

石橋鯉城臨

【用具・用材】
筆＝永昌五号
墨＝顕微無間
紙＝松雪

『真草千字文』
隋　智永　真草千字文　真蹟本
第一七九句目
殆辱近耻（辱に殆く耻に近きときは）

〈語　釈〉
殆辱近耻
殆ハ近ナリ辱ハ僇ナリ近ハ幾ナリ耻ハ恧ナリ是レ顯位榮爵以テ要路ニ立ツ者反抗ノ敵ナキ能ハス動モスレハ誹毀是レ至リ饞間是レ乘シテ或ハ其身ヲ寃枉ニ辱カシムルノ災無キヲ保セス是レ智者ノ譏誡ヲ怠ラサル所以ナリ物皆ナ時アリ時ヲ得テ而シテ興リ時ヲ失フテ而シテ敗ル人豈ニ特リ然ラサルコトヲ得ンヤ榮枯窮達亦時アリ智者宜シク耻辱ノ殆ニ近カントスルヲ幾微ニ察シテ之レヲ避ケ以テ身ヲ辱メサルヘキヲ謂フナリ

〈大　意〉
恥、辱はともにはじ、はずかしめを意味し、それが身を亡ぼす危険の大なることを言う。
このあと「林皐幸卽」（林皐に即かんことを幸ふ）と続き、「恥辱を受けそうなときは、恥辱を避け、林や沢に行くことが幸いとなる」の意。

〈解　説〉
今月は青墨を用いて墨の濃淡を利して書いてみた。先ずは運筆の緩急遅速を心得てから筆を運びたい。

（習い方は25ページ）

石橋鯉城臨

【用具・用材】
筆＝永昌五号
墨＝顕微無間
紙＝松雪

『真草千字文』
隋　智永　真草千字文　真蹟本
第一七九句目
殆辱近耻（辱に殆く耻に近きときは）

〈語句より〉
このあと、一八〇句目の「林皐幸即」と続く。林ははやし。皐は沢。幸は願う。即はすぐに行くこと。はずかしめに逢いそうなときには、林や沢に即くことを幸う、の意となる。

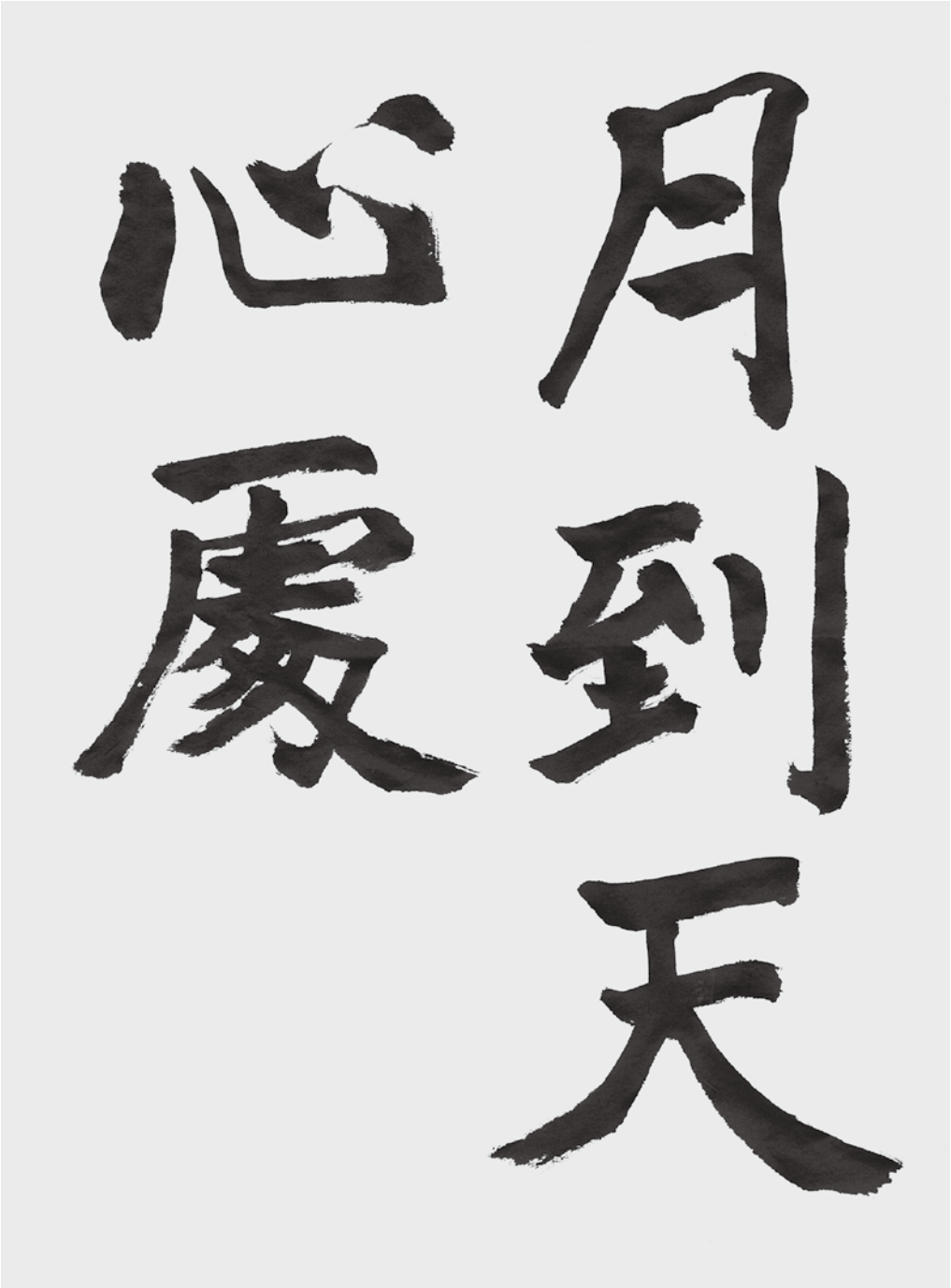
〈習い方〉
○草書をもとにした筆写体による伝統的な楷書の書きぶりを学ぶ。
○王法による智永の引き締まった結体に、暢びのある払いや繞を交えて、四字の楷書作品として仕上げる。
殆…歹へんの伝統ある書き方を身につけたい。斜画は身体を倒して切れのある線で。
辱…ここも筆写体。この伝統的な書きぶりは般若心経の中の「耨」にも見られる。行意を含む第1、2画は流れよく。すぐに鋒を引き上げずに厚みをつける。
近…斤の間のとり方を確認しよう。之繞は3つの点を打つように。
恥…耳偏に山。山の草書の形に似た「止」を書くこともある。米芾の蜀素帖には「耻」の形が見られる。

（習い方は25ページ）

漢字半紙（6級〜10級）

「月到天心處」の五字の倣書。「月到」の二字または「天心處」の三字を書いての提出も可。

石橋鯉城書



【用具・用材】
筆＝永昌五号
墨＝和墨
紙＝漢字用半紙

〈読み〉
月　天心に到る処

〈出典〉
『鳴鶴作品草稿集Ⅰ』より
邵康節（北宋）「清夜吟」

〈大意〉
月が天の中心にかかった頃。

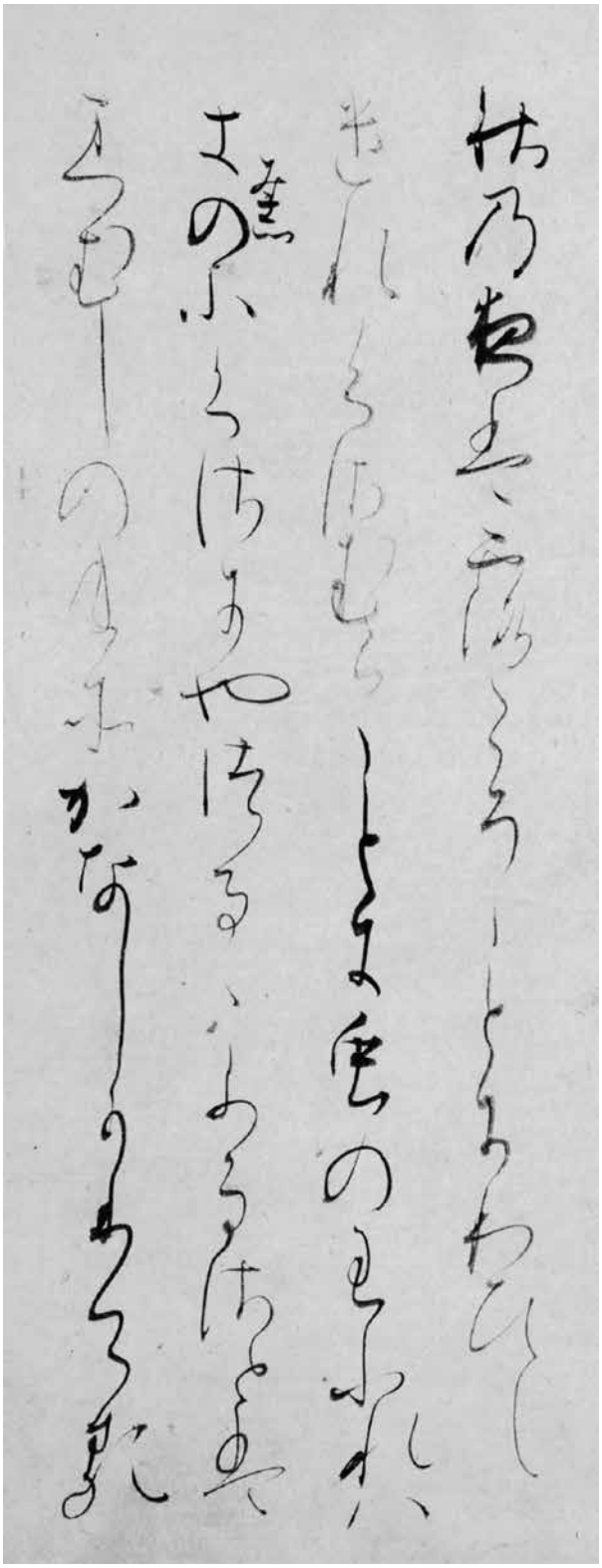
〈解説〉
○坐法を正し、武道と同じく、臍下丹田に重心を置いて姿勢執筆の〝型〟を整える。
○筆の鋒先の弾力を利して腋の開閉自在にして点画をつくり運筆する。

〈書き方〉
月…縦画は骨力ある線で背勢につくり、横画に変化を与える。
到…至と刂（りっとう）の組合せ。至の右側は「刂」にぶつからないよう揃える。（相譲相避）「刂」の二画目は、体を前傾し、その戻りで縦画をつくる。
天…概形は台形をイメージし、払いを暢びやかに。
心…一画目を重厚につくり、二画目は細目の線で変化させて、力強くハネル。点はハネをまたいで打つ。
處…虎冠は筆写体の書き方。筆順を正しく覚えよう。「$\overset{1}{\text{虍}}$」この方が書き易い。最終画を暢びやかに払う。

（習い方は26ページ）

かな半紙　専門部（五段～準初段）

左の『関戸本古今集』より「秋乃夜盤」から「可利介類」までの四行を、半紙を縦に使用して臨書しなさい。　※原寸には拘らなくてよい。



（原寸）

秋の夜はつゆこそことにわびしけれ　草むらごとにむしのわぶれば
君しのぶ草にやつるるふるさとは　松虫のねぞかなしかりける

※古今和歌集では
199「わびしけれ」→「さむからし」

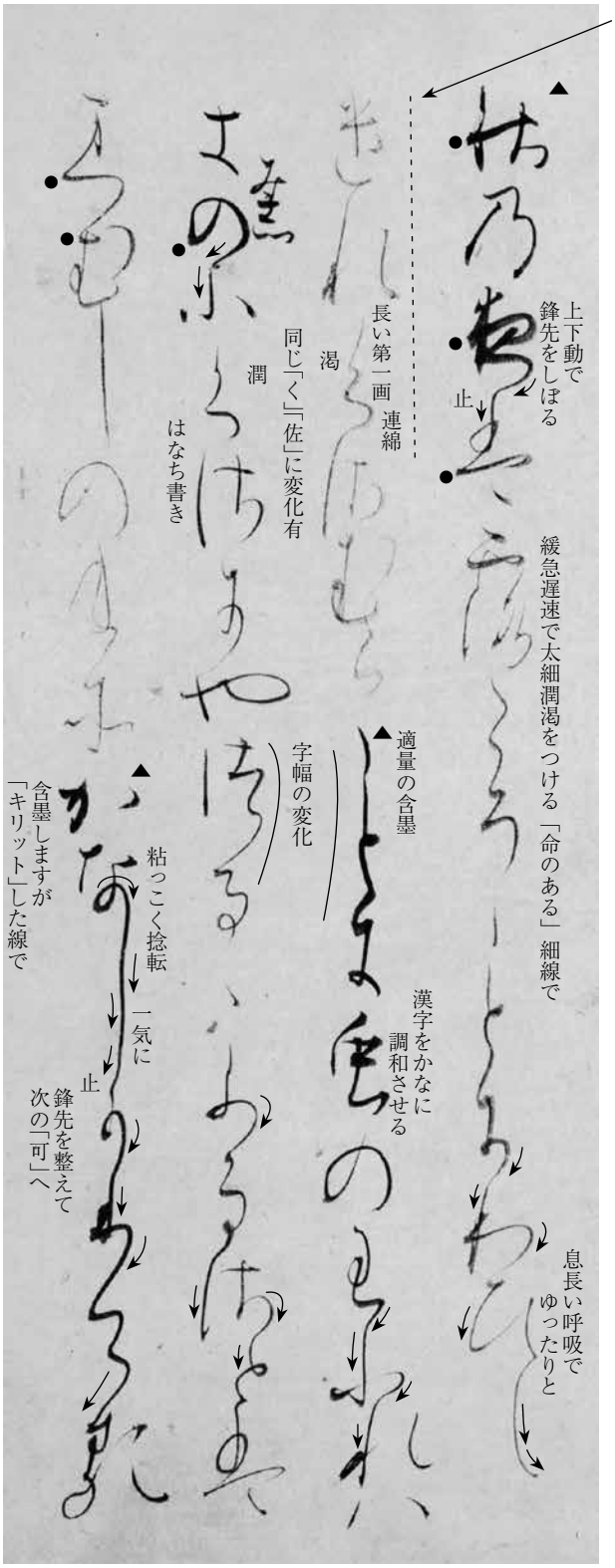
『関戸本古今和歌集』

〈読み〉
秋乃夜盤露こ曽こと尓わびし遣
れ久佐むらごと尓虫の王ぶれ八
支み志のぶ久佐尓や徒る、ふる
佐と盤
万つむしの年所かなし可利介類

〈大意〉
199 秋の夜は寒いが、露はことに寒いのであろう。露のおりているどの草むらでも虫がつらそうに鳴いているのを聞くと。
200 （あなたをしのぶという言葉のように）、しのぶ草が茂って荒廃しているこの思い出の里では、人待ち顔に鳴いている松虫の声で、いっそう悲しさをさそわれることであるよ。

（古今和歌集　巻第四　秋歌上　199・200）

課題解説（かな半紙五段～準初段）



▲**墨つぎのめやす**
十分に含墨した後、余分な墨を反古紙等で除いてから書き始めます。

●**面を返す所**
この他にも沢山あります。みつけましょう。

右旋回の曲線の中の直線、縦線に注目

〈解説〉

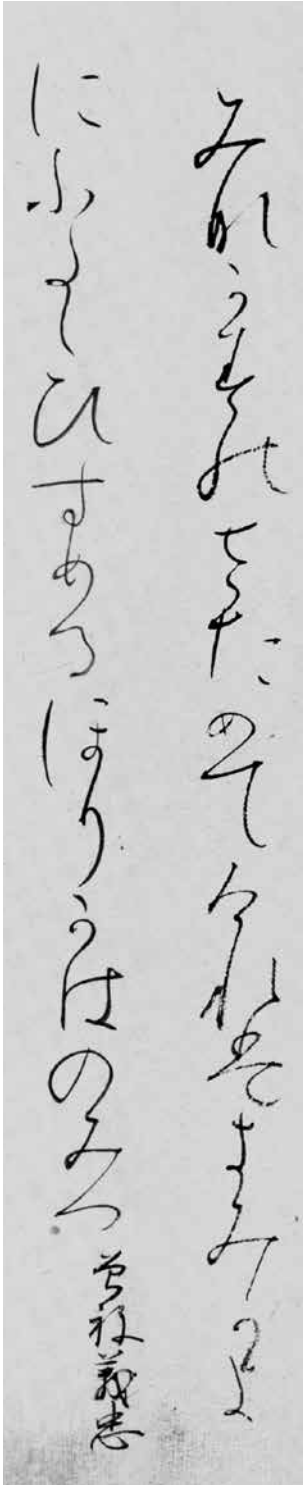
臨書課題は、関戸本より先月に続く和歌二首です。大小長広の文字本来の字形に合わせた広狭と潤渇が徐々に変わる縦流れの四行です。その四行同士は、波がゆったり寄せては引くように響き合い、立体的な景色を表現しています。筆に含まれた墨がなくなりつつも、その弾力を生かし抑揚や上下動、さらに筆の面を返したり捻転させたりと筆を駆使し墨をもちこたえる事が大切です。これは頭で理解するだけでなく体で会得しなければなりません。何度もよく観察して書くことが大切です。

（八尋光華）

【用具・用材】
筆＝かな用小筆
墨＝かな用和墨
紙＝かな用雁皮

かな半紙（1級～5級）

左の図版の「み那可美能」から「ほり可はのみつ　曾禰義忠」までを、半紙を縦に使用して臨書しなさい。※原寸には拘らなくてよい。



（原寸）

水上のさだめてければ君が代にふたたびすめる堀川の水

曽禰好忠

※作者名は底本に義忠とある。

『粘葉本和漢朗詠集』

（巻下　水付漁夫520　曾禰好忠）

〈読み〉

み那可美能さだめて介れ盤支
み可よ
にふ多、びすめるほり可はの
みづ　　曾禰義忠

〈大意〉

水源がしっかり定められているので、円融天皇の時代に二度も堀川の水は澄み清められて、天皇が再びお住いになったことだ。それというのも主の藤原兼通がきちんと天子の恩恵を導かれるように固めておいたからだ。

課題解説（かな半紙1級～5級）

〈解説〉

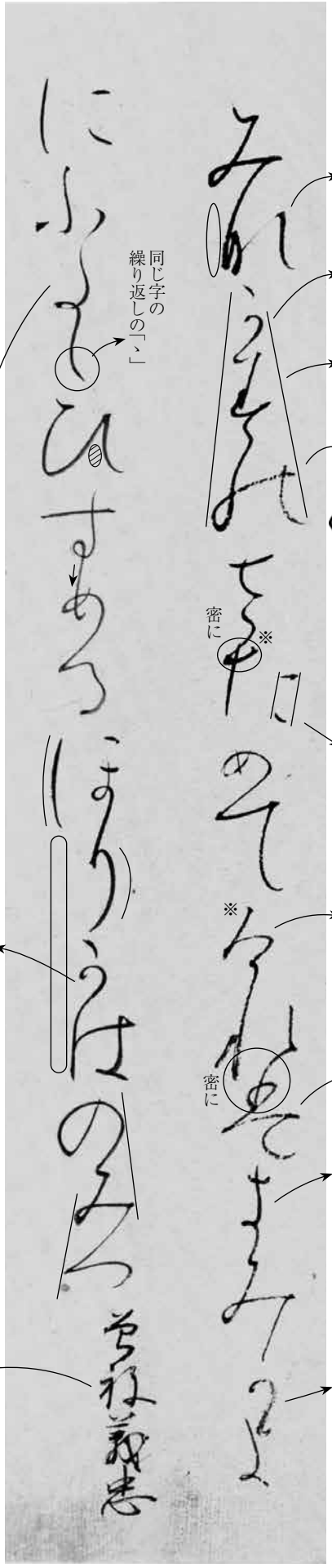
今月も和歌一首を二行書きにします。

丁寧に磨った濃いめの美しい墨色で、キリッと仕上げて下さい。薄めの墨色ですと、線が沈んでしまい、二行が引き立ちません。余白も生きません。

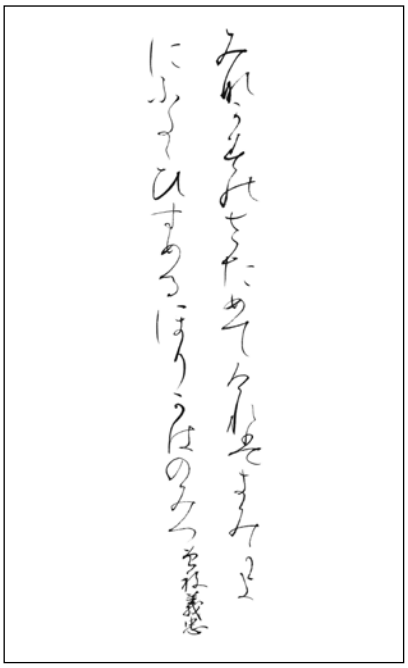
筆はできるだけ上部を持って、筆の運動が大きくなるようにして下さい。

紙によく食いこんだ線で、心地よいリズムを感じさせる作品になるまで書き込んでください。

（甲谷景子）



〈参考作品〉



（甲谷景子臨）

ポイント

① 二字連綿（なた など）

三字連綿（なた など）

などがあるのがわかるかと思います。その「かたまり」を意識してきちんとまとめることが大切です。

② 似ているので間違えやすい字です。誤字にならないように気をつけてください。

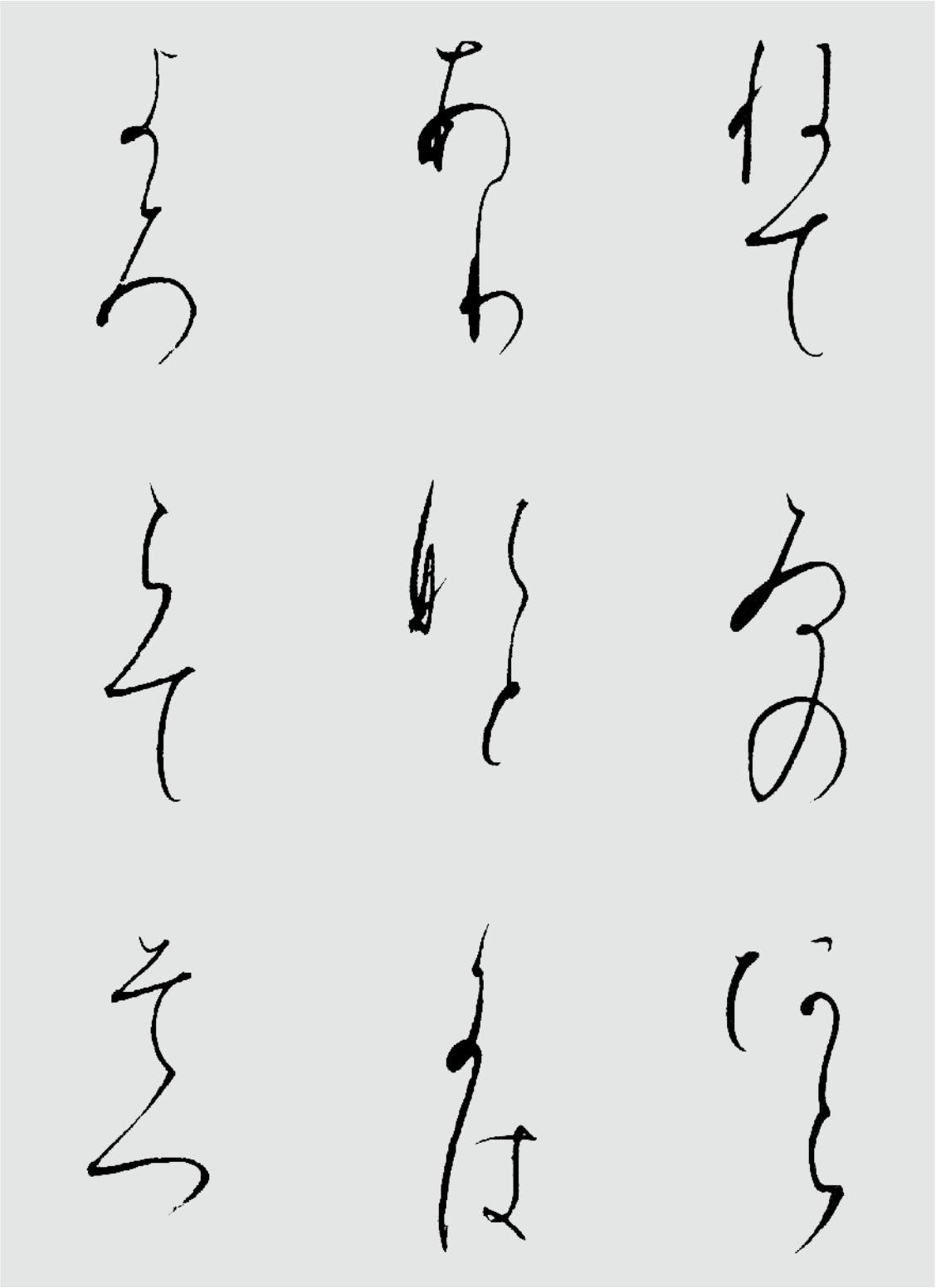
み（美）　す（春）

【用具・用材】

筆＝かな用小筆
墨＝かな用和墨
紙＝かな用雁皮

かな半紙（6級～10級）

左の図版の「ねて」から「そつ」までを半紙を縦に使用して体裁よく書きなさい。



ねて　ゐの　阿(あ)ら　あ利(り)　那(な)と　尓(に)は　よろ　らて　そつ

〈出典〉
安東聖空「梅雪かな帖（上）」より

今月は連綿の書き方を説明します。

連綿は、なめらかにつなげることが大切です。連綿する時は、文字単体の意識を弱くして、上の文字の最終画の前で休み、「上の文字の最終画」→「連綿線」→「下の文字の一画目」までを一つの流れで書きます。

「上の文字を書き終えて筆を止め、連綿線を書いて休み、それから下の文字を書く」のでは、なめらかな連綿にはなりません。

連綿の呼吸を習得して下さい。

（川島史子）

【用具・用材】
筆＝かな細字用筆
墨＝かな用和墨
紙＝かな用半紙

（習い方は26ページ）

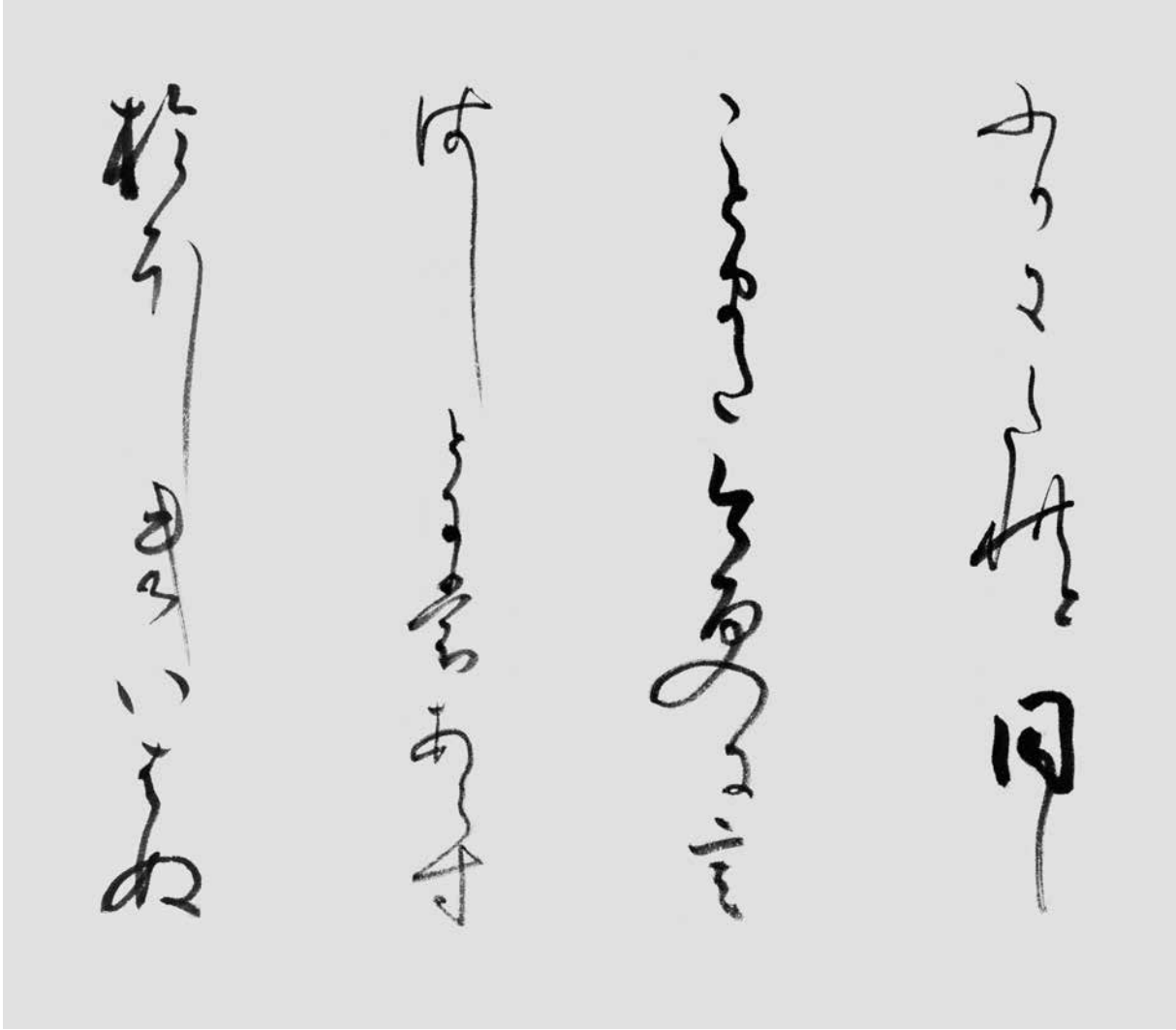
かな半紙　専門部（会友～準六段）

左の「ふり尓多禮と」から「於本し幾い者ぬ」迄四行を半紙を横に使用して臨書しなさい。

※徒然草第十九段から

みな源氏物語・枕草子などにこと古りにたれど、同じ事、また、いまさらに言はじとにもあらず。おぼしき事言はぬは腹ふくるゝわざなれば

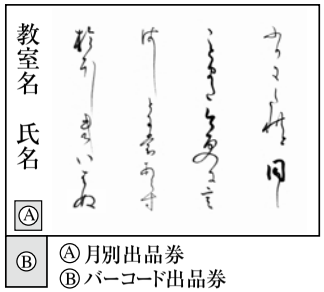
（大正時代の文部省中等教員資格認定試験委員岡山高蔭書による『つれ〳〵くさ』折帖手本の一部）



原寸は縦二八cm横三二cm（原寸に近い大きさで書くこと）

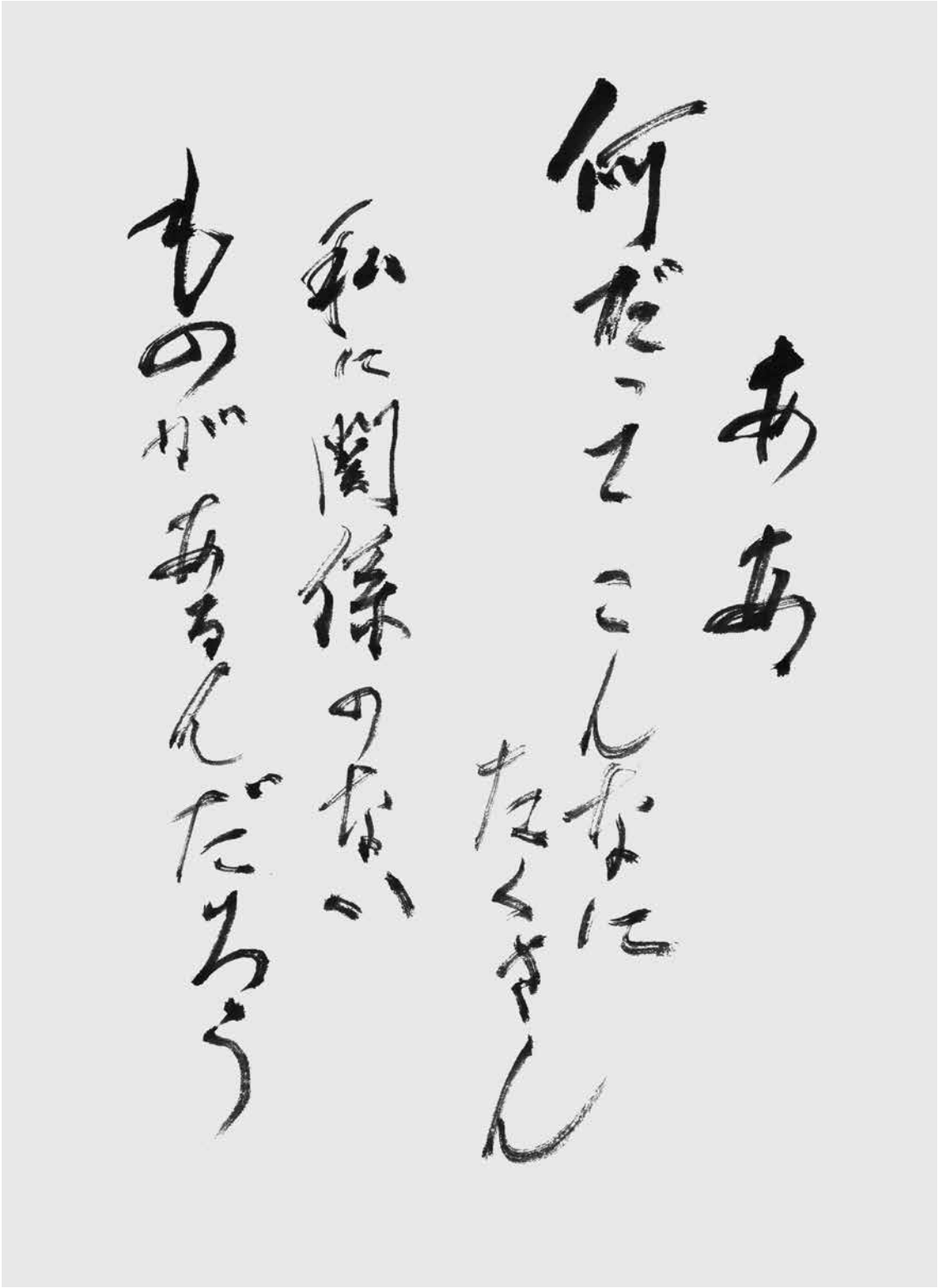
○一級以上の方はこうした課題を見て、釈文なしで親しめるようにしておきたい。また、その為に背臨を試みて覚え込んで欲しい。

月別出品券と
バーコード出品券の貼り方



新和様半紙　専門部（五段～準初段）

参考手本　※半紙を縦にして使用



永井香樹書

ああ何だってこんなにたくさん私に関係のないものがあるんだろう

〈出典〉

「この言葉！
生き方を考える50話」より
ソクラテス（前469～前399）

〈解説〉

○平仮名の多い文です。
○騒がしくならないよう、行の長短・墨量に留意しましょう。
○文字の大小にも留意して、他の行との調和に心懸けましょう。
○平仮名は、画数が少ないので大きく太くなりがちです。単語・文節に留意して、細線や渇筆を活かす工夫をしましょう。
○声を出して読んで、自分なりの行立てを試みましょう。

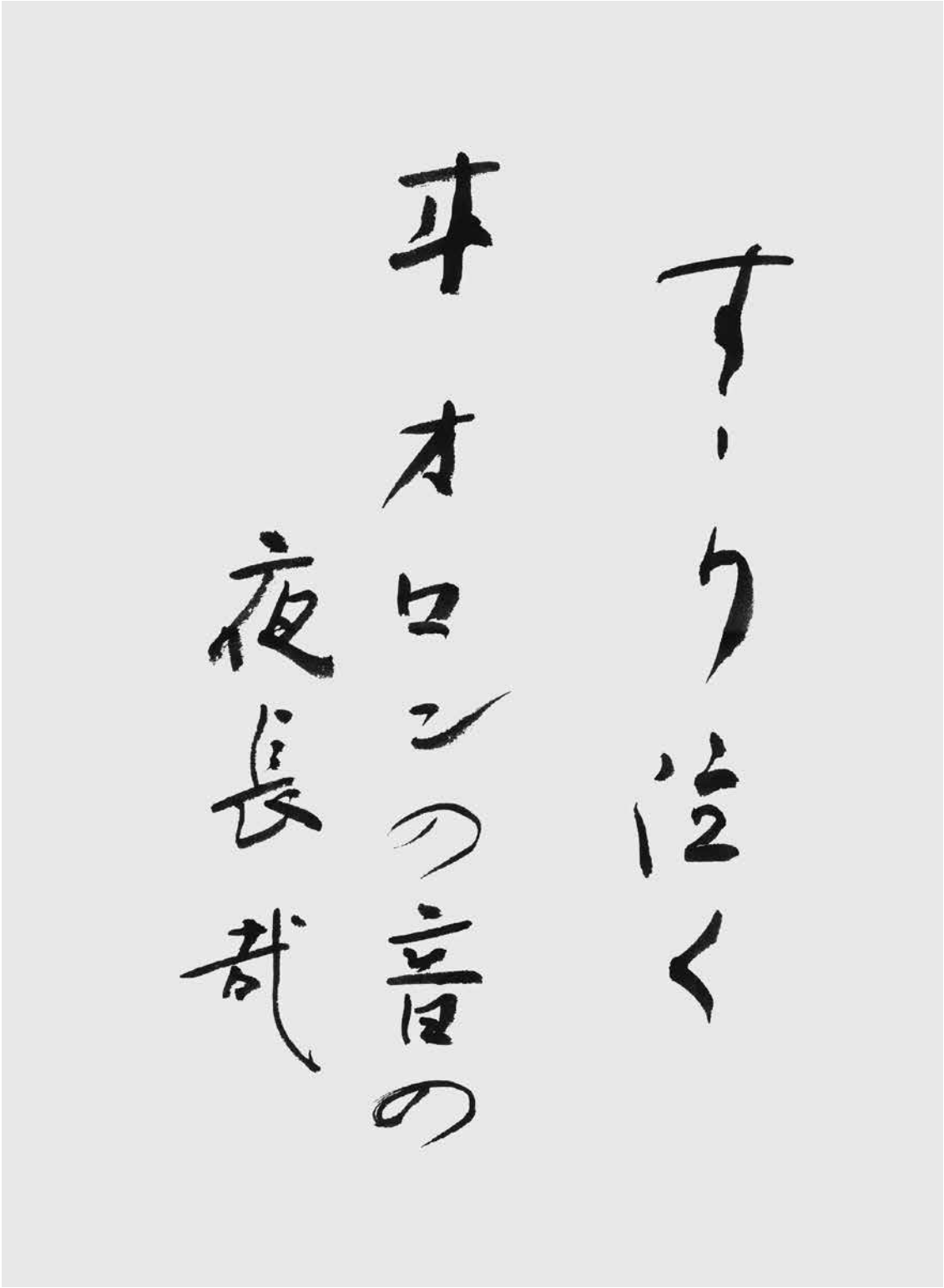
【用具・用材】

筆＝八号和筆　全部おろす
墨＝和墨
紙＝手漉漢字用半紙

（習い方は26ページ）

新和様半紙（1級～10級）

参考手本　※半紙を縦にして使用



石橋鯉城書

すゝり泣く虫オロンの音の夜長哉

〈出典〉
「荷風俳句集」

〈作者〉
永井荷風（一八七九～一九五九）

〈大意〉
どこからともなくバイオリンの音が聞こえてきた。秋の夜長に悲しげに響いている。

〈解説〉
○墨は濃い目にし、鋒先で紙面を突くようにして書き、渇筆も入れて明るく表現しよう。
○文字の概形をつかみ、整い過ぎず、ややデフォルメした字形にしたい。
○片かなは、堅くなり過ぎぬよう、平がなや漢字と調和させる。
○運筆の呼吸に留意し、手書き文字の味わいを感じて作品づくりを楽しみたい。

【用具・用材】
筆＝和筆　羊毫
墨＝和墨
紙＝松雪

（習い方は26ページ）

漢字条幅 専門部（五段～準初段）

建中告身帖より「上柱國」から「立德踐」までを臨書しなさい。70ページ参照

（用紙　画仙紙半折・たて136㎝×よこ35㎝）

林田香濤臨

上柱國魯郡開國公　顔真卿立德踐

〈読み〉上柱国・魯郡開国公・顔真卿は徳を立てて踐（ふ）み（行う）。〈作者〉顔真卿（七〇九～七八五）

〈大意〉（光禄大夫・行吏部尚書・充礼儀使・）上柱国・魯郡開国公顔真卿は徳を立ててそれを実践している。

（解説は27ページ）

漢字条幅（1級～10級）

参考手本

（用紙　画仙紙半折・たて136㎝×よこ35㎝）

小久保嶺石書

對酒不覺暝

〈読み〉酒に対して暝（ひく）るるを覚えず　〈作者〉李白（七〇一～七六二）　〈出典〉中國詩人選集「李白 上」岩波文庫

〈大意〉酒とさしむかいでいたら、日の暮れたのに気がつかなかった。

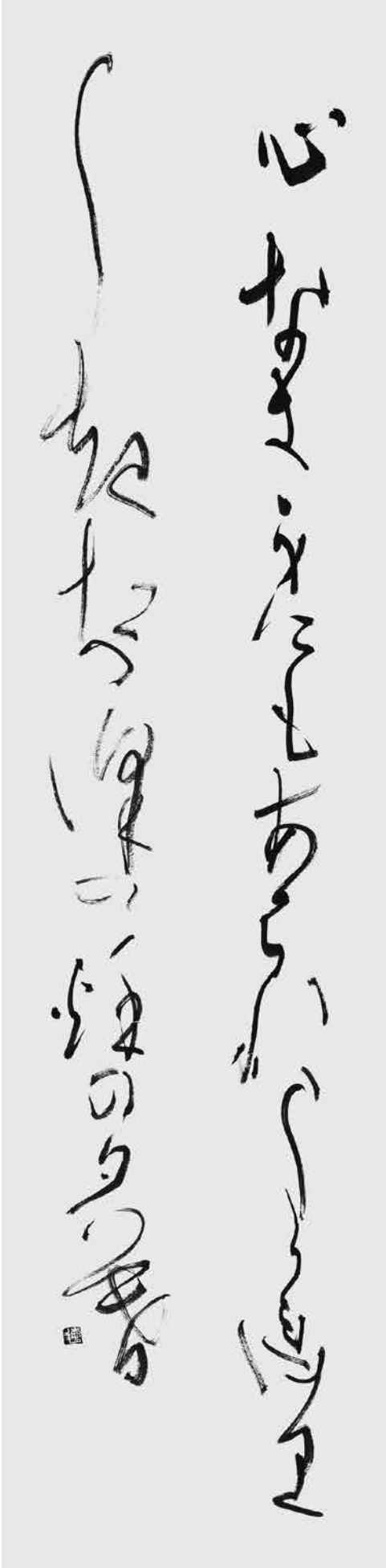
（解説は27ページ）

9月号 14頁 かな条幅　専門部（五段～準初段＝昇段試験課題）の課題に誤りがありました。70頁を参照の上、ご出品ください。

かな条幅 専門部（五段～準初段）

参考手本　※変体がなの使用、漢字・かなの書き換え自由

（用紙 かな用画仙紙半折・たて136㎝×よこ35㎝）



心なき身にもあはれは知られけり　鴫たつ澤の秋の夕ぐれ

〈読み〉心な支身にもあ者れ八しら連け里　し起たつ澤の秋の夕暮　〈出典〉山家集（西行）　岩波文庫　佐佐木信綱校訂

〈大意〉俗世間のことは捨てたはずの世捨人のわが身にも、しみじみとしたあわれが知られることである。この鴫が佇立する沢の秋の夕。

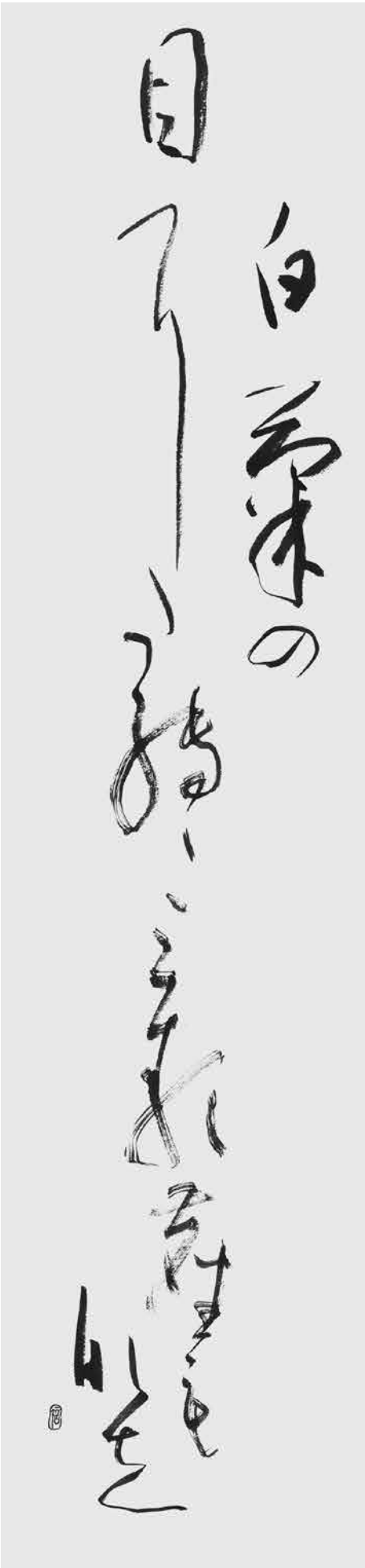
（解説は27ページ）

中村清徳書

かな条幅（1級～10級）

参考手本　※変体がなの使用、漢字・かなの書き換え自由

（用紙 かな用画仙紙半折・たて136㎝×よこ35㎝）



白菊の目にたてて見る塵もなし

〈読み〉白菊の目耳多轉々三類　塵毛那志　〈作者〉松尾芭蕉（一六四四～一六九四）

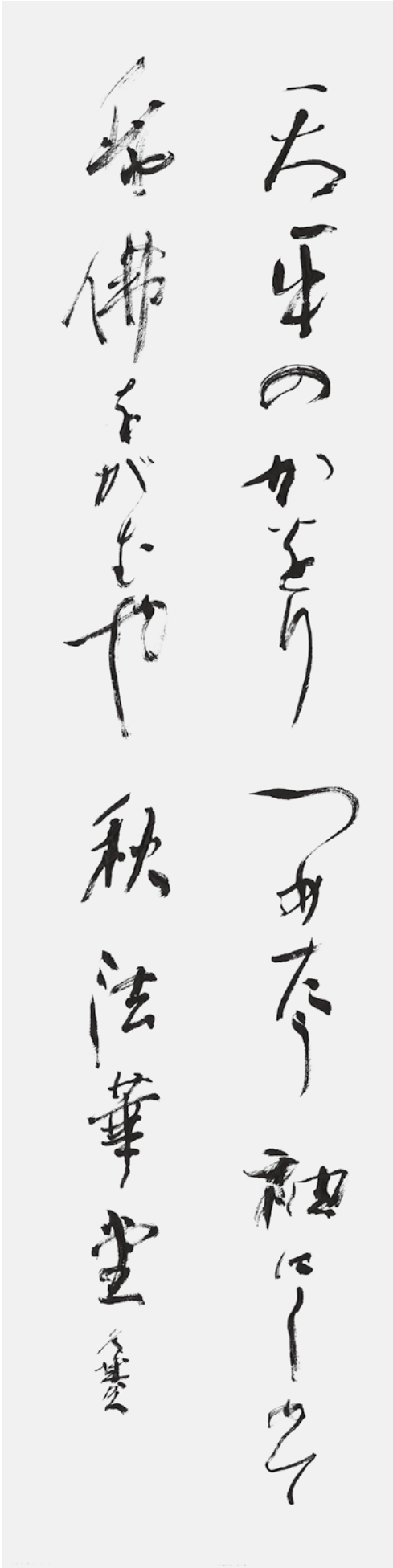
〈大意〉白菊は、一点の塵もなく、いよいよ白く、清らかで、その美しさは風雅の美そのものである。

（解説は27ページ）

内堀信嶺書

新和様条幅　専門部（五段～準初段）参考手本

※新和様条幅は新和様半紙の有段者対象。条幅初出品の場合は、**準初段から**の出品となります。

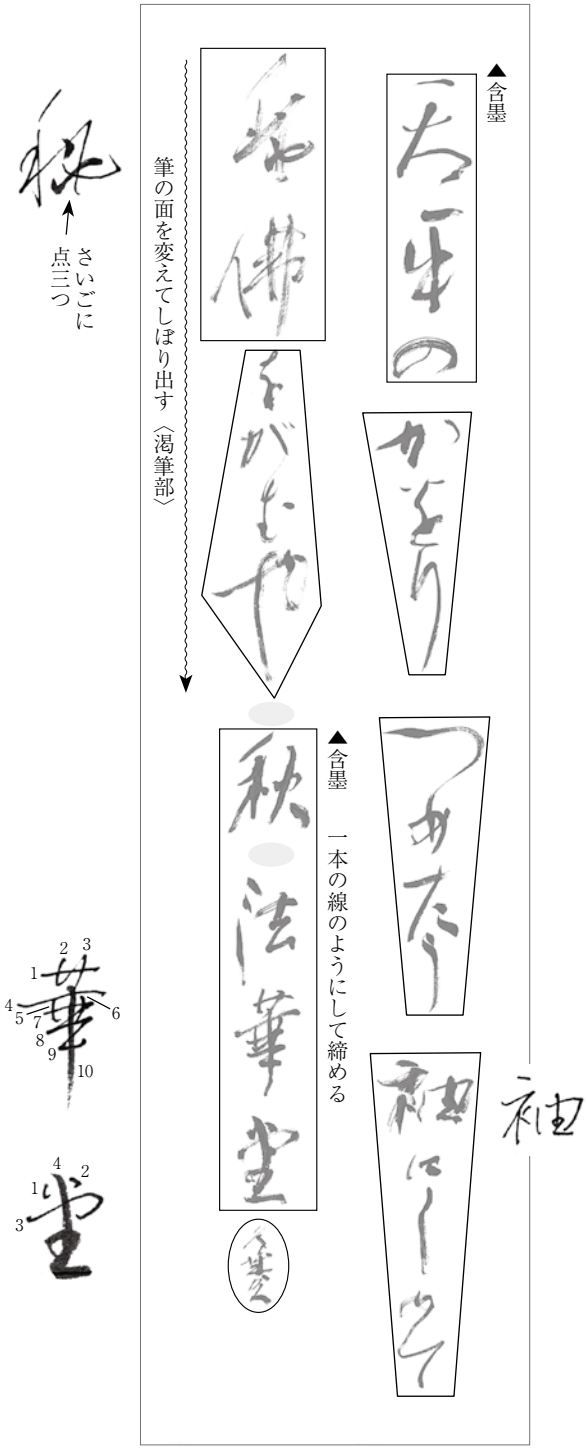


石橋鯉城書

天平のかをりつめたう袖にしめて秘佛をがむや秋法華堂

〈作者〉尾上柴舟（一八七六～一九五七）〈出典〉『尾上柴舟全詩歌集』（短歌新聞社）より

〈大意〉秋の日、奈良東大寺の法華堂を訪れ仏像を拝むと、遥か天平の香りがして、ひんやりと袖にしみ入って来るようだ。



〈解説〉

○墨は油煙で滲ませず、渇筆を使って明るさを表現。

○漢字は概して大き目に書くが、最後の「秋法華堂」は小ぶりで一本の線のようにして締めたい。

○全体を7つの塊として構成する。

○文字の大小・太細・潤渇にも留意して流れよくまとめたい。

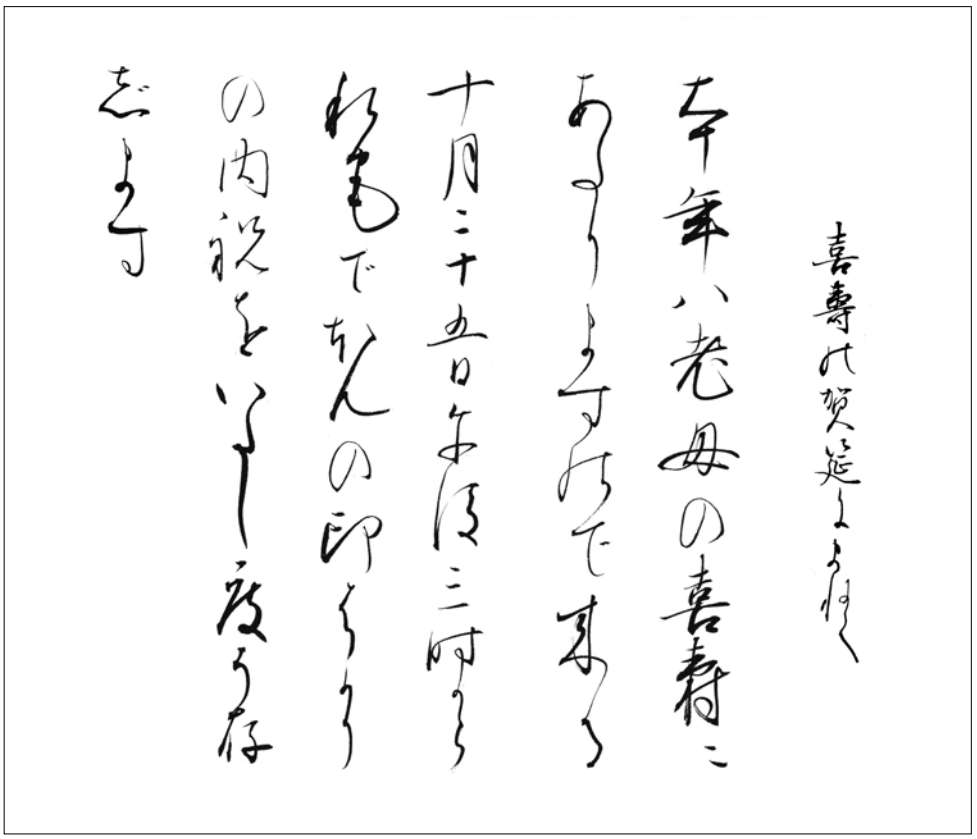
【用具・用材】

筆＝長鋒羊毫　墨＝和墨

紙＝一番唐紙

実用書（随意課題）

梅雪手紙帖より（安東聖空）



喜壽能賀筵尓末ねく　本年八老母の喜寿二
あ多り末す能で來る十月二十五日午後三時可ら
私宅で本んの印者可りの内祝をい多し度う
存志末す

○出品用紙は、下側に示した清書用紙でも、これをコピーして書いても結構です。洋紙に書くことをここでは原則とします。
（今月号のものを使用してください。）

参考の小筆
・玉梓
・選毫圓健

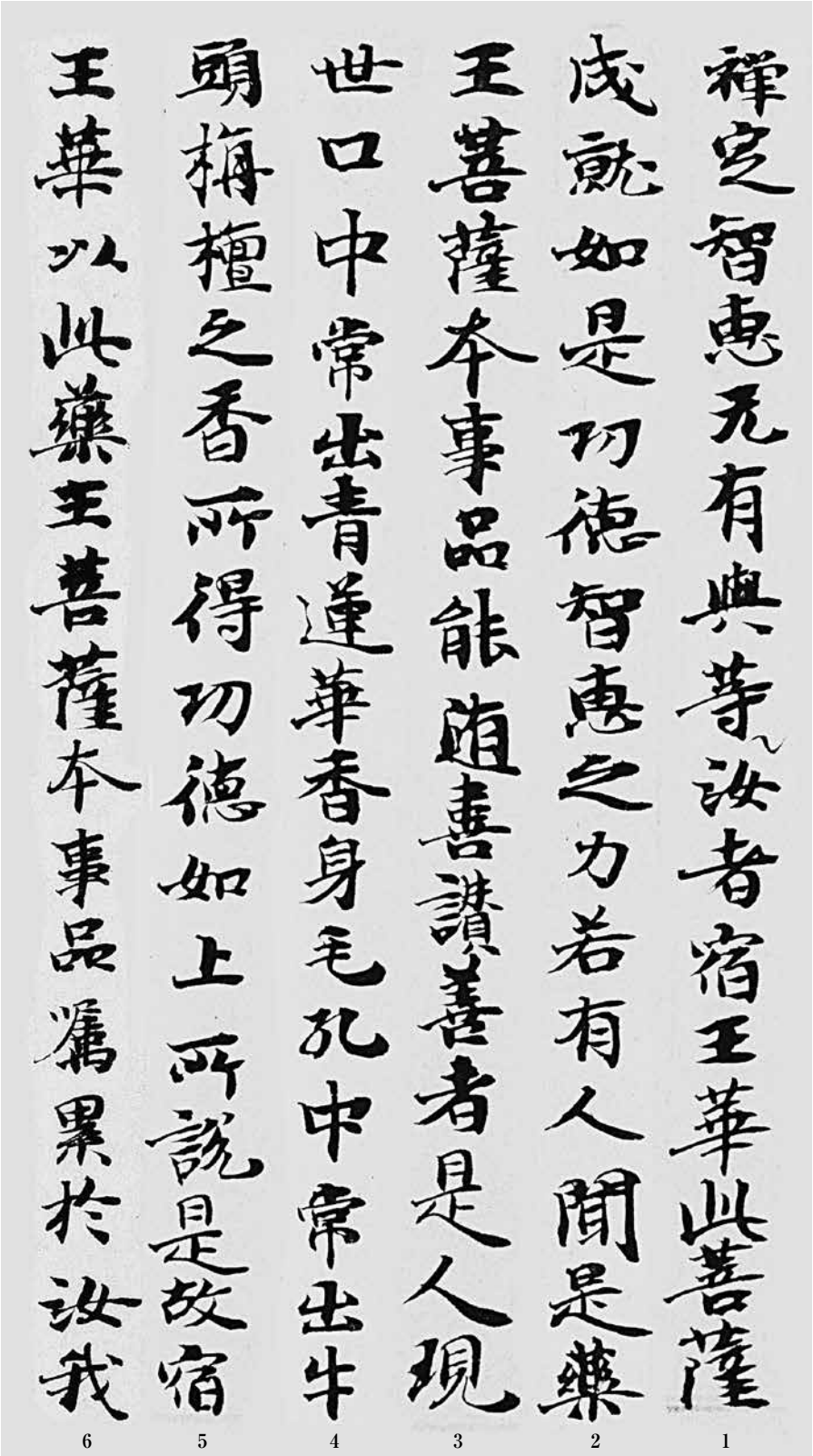
・月別出品券（73ページ）とバーコード出品券（段級欄に「実用」と記入）を左下に貼付してください。

切りとって提出してください（コピーも可）

教室名	
氏名	

月別出品券を貼る

禪定智慧～受持是經者應の百九十一字を清書して出品。



（乃至菩薩の）

智慧・禅定も、汝と等しき者有ることなからん、と。宿王華よ、この菩薩は、かくの如き功徳・智慧の力を成就せり。若し人有りて、この薬王菩薩本事品を聞き、能く随喜して善しと讃めば、この人、現世に口の中より常に青蓮華の香を出し、身の毛孔の中より常に牛頭栴檀の香を出さん。得る所の功徳は上に説く所の如し。この故に、宿王華よ、この薬王菩薩本事品を以て汝に嘱累す。我が滅度の後、後の五百歳の中にて、閻浮提に広宣流布し、断絶せしめて悪魔・魔の民・諸の天・竜・夜叉・鳩槃茶

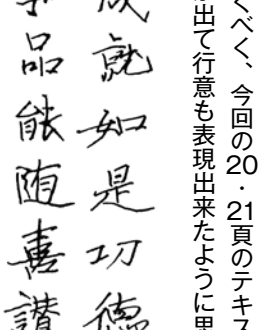
（乃至菩薩、）

智慧禪定、無有與汝等者、宿王華、此菩薩、成就如是功德、智慧之力、若有人、聞是藥王菩薩本事品、能隨喜讃善者、是人現世口中、常出青蓮華香、身毛孔中、常出牛頭栴檀之香、所得功德、如上所說、是故宿王華、以此藥王菩薩本事品、囑累於汝、我

〈解　説〉　石橋　鯉城

◎今回は法隆寺細字法華經の原姿に近付くべく、今回の20・21頁のテキストを70％に縮小してスプーンペンで書いてみた。

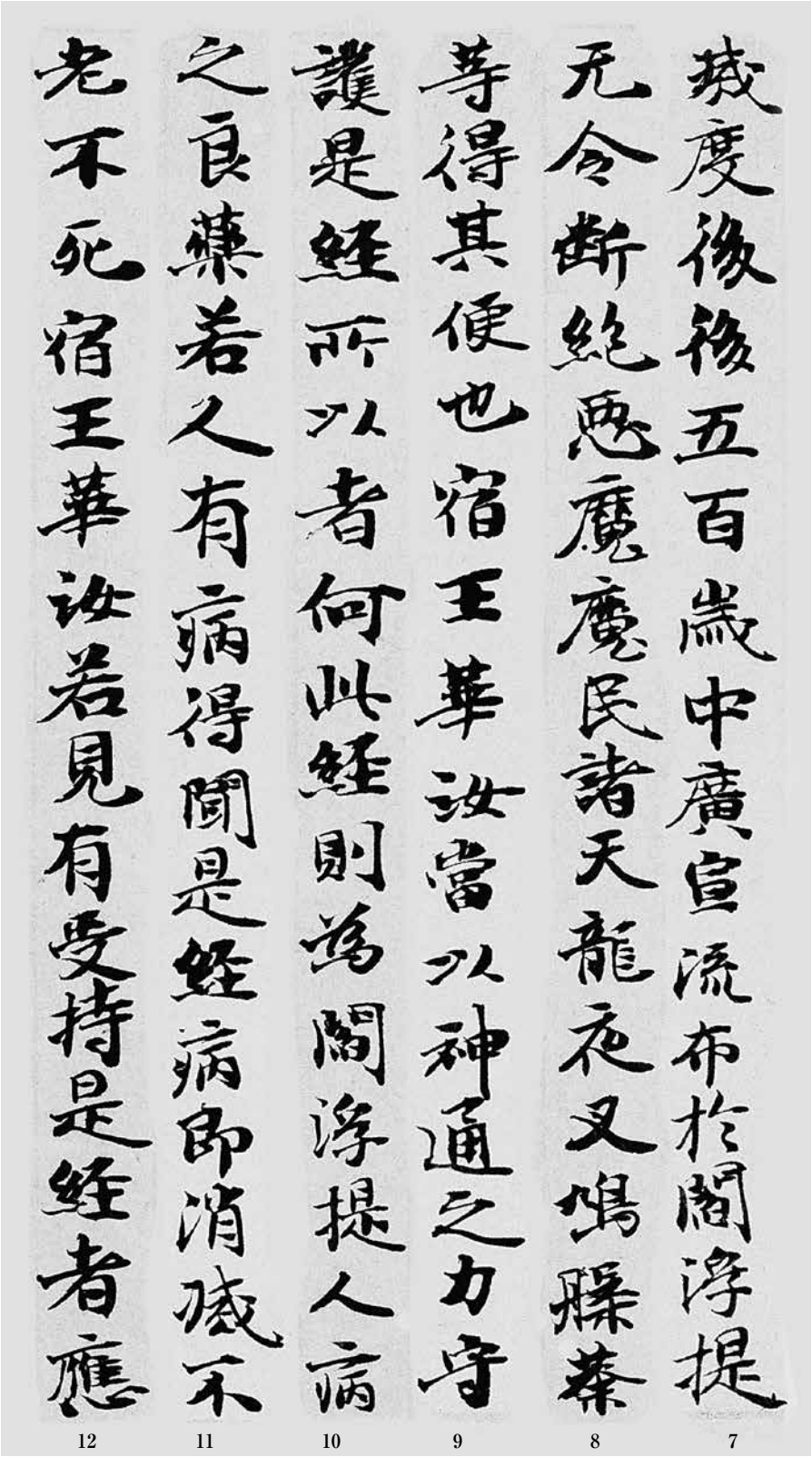
◎書き味の印象からは、却って締まりが出て行意も表現出来たように思われる。参考にして頂ければ幸いである。



下の「法華経」（見開き 12 行）或いは、次頁掲載の犀水寫「般若心経」一巻の孰れかを選んで清書出品してください。

滅度後、後五百歳中、廣宣流布、於閻浮提、
無令斷絶、悪魔、魔民、諸天、龍、夜叉、鳩槃荼
等、得其便也、宿王華、汝當以神通之力、守
護是經、所以者何、此經則爲、閻浮提人、病
之良藥、若人有病、得聞是經、病卽消滅、不
老不死、宿王華、汝若見有、受持是經者、應
（以青蓮華、盛滿抹香、供散其上、）

滅度後後五百歲中廣宣流布於閻浮提无令斷絶
惡魔魔民諸天龍夜叉鳩槃荼等得其便也



全文音読して和漢混淆文の響きの美しさに触れましょう。
図版中文字で、判然としていないところは、経典の「釈文」中の同字の書き方に倣って書きます。

清書の氏名の後に「謹寫」または「敬寫」の二字を書き添えます。

等にその便を得せしむることなかれ。宿王華、汝は当に神通の力をもってこの経を守護すべし。所以は何ん。この経は則ち為れ閻浮提の人の病の良薬なればなり。若し人、病ありてこの経を聞くことを得ば、病は即に消滅して不老不死ならん。宿王華よ、汝、若しこの経を受持すること有る者を見れば、応に（青蓮華と盛り満せる抹香を以って、その上に供え散らすべし。）

※閻浮提＝我々の住む世界。佛教界では、世界の中心に須弥山があり、それを囲んで世界が構成されている。中心から離れて閻浮提があり、日本は中心から離れて存在すると考えられている。

下の「般若心経」か、前頁「法華経」（見開き 12 行）一巻のどちらかを出品してください。　**不二細字研究室**　（会友～1級）　石橋犀水先生書

摩訶般若波羅蜜多心経

観自在菩薩行深般若波羅蜜多時照見五
蘊皆空度一切苦厄舎利子色不異空空不
異色色即是空空即是色受想行識亦復如
是舎利子是諸法空相不生不滅不垢不淨
不増不減是故空中无色无受想行識无眼
耳鼻舌身意无色聲香味觸法无眼界乃至
无意識界无无明亦无无明盡乃至无老死
亦无老死盡无苦集滅道无智亦无得以无
所得故菩提薩埵依般若波羅蜜多故心无
罣礙无罣礙故无有恐怖遠離一切顛倒夢
想究竟涅槃三世諸佛依般若波羅蜜多故
得阿耨多羅三藐三菩提故知般若波羅蜜
多是大神呪是大明呪是无上呪是无等等
呪能除一切苦真實不虚故説般若波羅蜜
多呪即説呪曰

揭諦揭諦　波羅揭諦　波羅僧揭諦　菩提薩婆訶

般若心経

奉為　二百萬巻寫経發願成就

為（お願いごとをお書きください）　具体例　●○○家先祖代々（又は先祖の戒名）証大菩提也　●家内安全　●身体健全　●大願成就　●学業成就　等

住所

齋戒沐浴　氏名　謹寫

※納経料を添えてご出品下さい

不二細字研究室（2級～10級＝月例課題）

石橋犀水先生書
草苅北望先生解説

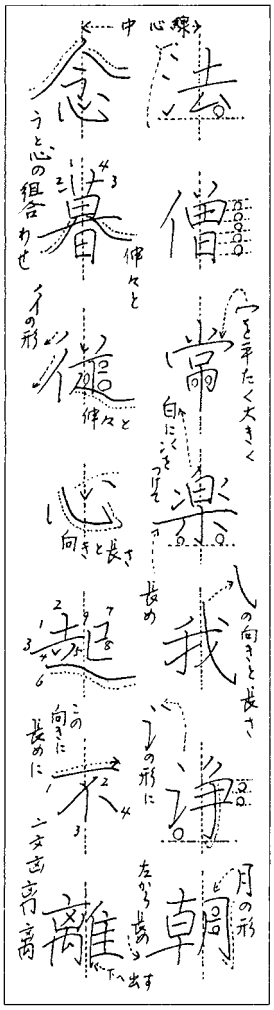
延命十句観音経

観世音南無佛与佛有因与佛
有縁佛法僧縁常楽我浄朝念
観世音暮念観世音念念従心
起念念不離心

百萬卷寫經願成就

住所

氏名　敬寫



〈読み〉

延命十句観音経
観世音　南無佛　與佛有因　與佛有縁　佛法僧縁　常楽我浄
朝念観世音　暮念観世音　念念従心起　念念不離心

〈大意〉

観世音　仏に南無したてまつる　仏と因あり　仏と縁あり　仏と法と僧と
の縁によって　常・楽・我・浄の四徳を得ん　朝な朝なに観世音を念じ
夕な夕なに観世音を念じ　念々、心より起こり　念々、心を離れず。

不二細字研究室 出品規定

月別出品料は無料です。（納経料は別途）

試験や月例競書にご出品の作品には、バーコード出品券と月別出品券を作品の左下に貼付してください。

■会友・準会友・八段～1級の方
納経料＝五〇〇円　＊必ずご納経ください。
①本誌掲載の「法華経」または「般若心経」を書いて出品。
②発表された段級を（会友・準会友は赤、段は赤の漢数字、級は黒の算用数字で）バーコードに記入してください。
③昇格はしませんが、準会友～1級は天・地で評価されます。

■2級～10級の方
①「延命十句観音経」を書いて出品。
②2級以下は昇級者に○をつけて発表します。昇級者は次回、発表された一つ上の級位を（黒の算用数字で）バーコードに記入してください。
③初出品の方は10級で出品してください。

編入試験　細字研究室　編入試験料＝一、四〇〇円
①2級～10級の課題を書いて出品。
②編入用バーコードに「編入」と赤で記入してください。
③審査後、相当段級に編入します。次回は発表された段級で出品してください。
④試験料免除については本誌「編入試験のご案内」に準じます。

□用　紙　「般若心経」用（20枚、100枚）「延命十句観音経」用（100枚）
三多軒でご用意しております。（☎03-3265-5493）
【オンラインストア】www.santaken.com

□送り先　〒101-8358 東京都千代田区西神田二-二-二
公益財団法人日本書道教育学会「写経事務局」宛（傍線は赤で）
＊写経作品は他の月例競書とは別にして下さい。

□納経について
納経をご希望の方は一巻につき五〇〇円を郵便振替でご入金の上、「振替払込請求書兼受領証」を写経作品に添えてお送り下さい。

□お問い合わせ　☎03-3234-3919

□振替　口座番号　〇〇一四〇-二-六三五九二二
加入者名　（財）日本書道教育学会　写経事務局

＊令和三年四月一日より、口座番号が変更となりました。
＊納経料の振込手数料は各自負担となります。今までの振替用紙はお使いいただけません。郵便局に備え付けの振込用紙をお使い下さい。

きりとり

納経連絡用紙

公益財団法人日本書道教育学会
二百萬巻写経実践推進委員会事務局

ふりがな	納経者氏名	
住所	〒□□□-□□□□	電話番号（　　）-（　　）-（　　）
ふりがな	雅号	

※初めて納経される方は、お写経を添えて一緒に写経事務局にお送りください。
芳名録の作成に使用させていただきますので、ご協力ください。

不二篆刻研究室

▼規定…左の語句を刻しなさい。（朱白自由・大きさは4センチ角以内）

麗澤

〈読み〉レイタク
〈大意〉友人とともに学を講じ徳を修めること。

▼随意…好きな語句を刻しなさい。（朱白自由・大きさは4センチ角以内）

○作品は「半紙横1/2」を縦長にして体裁よく押印し、印影を提出。
○巻末の出品要項をよく読んでご出品ください。

一字書

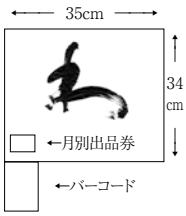
▼規定…左に示す漢字を一筆書として墨継ぎすることなく「書」しなさい。（書体自由）

〈読み〉［音］キョク・ゴク　［訓］きわめる・きまる
〈意味〉きわまる。達する。頂点。定める。
〈おすすめの用紙〉
萬象 50枚（夾宣）
作品の左下に教室名・氏名・会員番号・段級を鉛筆で記入のこと。

▼随意…左に示す平がなに運筆の呼吸を吹き込んで生命（イノチ）ある字に仕立てなさい。（書体自由）

仮名の成り立ちや草書の「和」の書法、筆遣いも考えて創作すること。

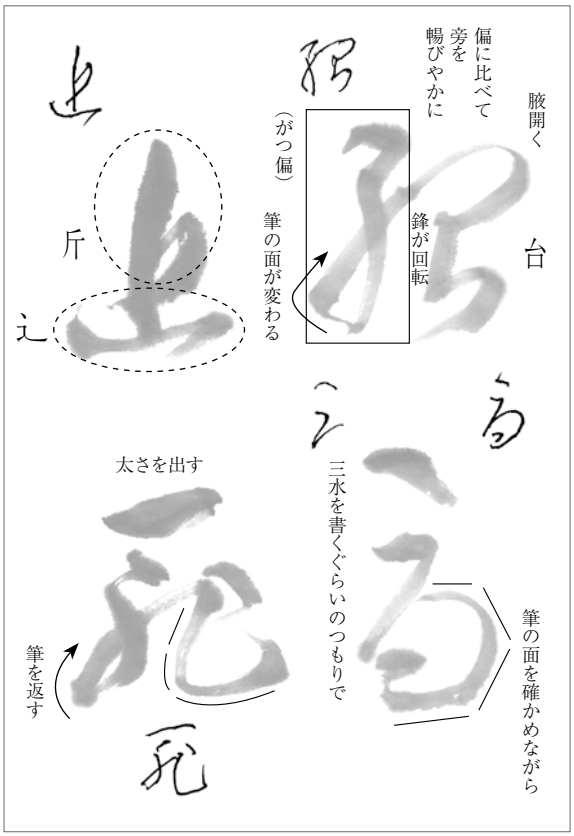
〈おすすめの用具・用材〉
一字書 100枚（夾宣）
特選一字書 100枚（夾宣）
作品の左下に教室名・氏名・会員番号を鉛筆で記入のこと。



○バーコードは、段級欄に「一字書規定○段（級）」または「一字書随意」と書いて貼付してください。**（規定の方は段級を忘れずに）**
○落款は印のみか一字に雅印ぐらいで。
○巻末の「競書出品要項」をよく読んでご出品ください。

課　題　解　説

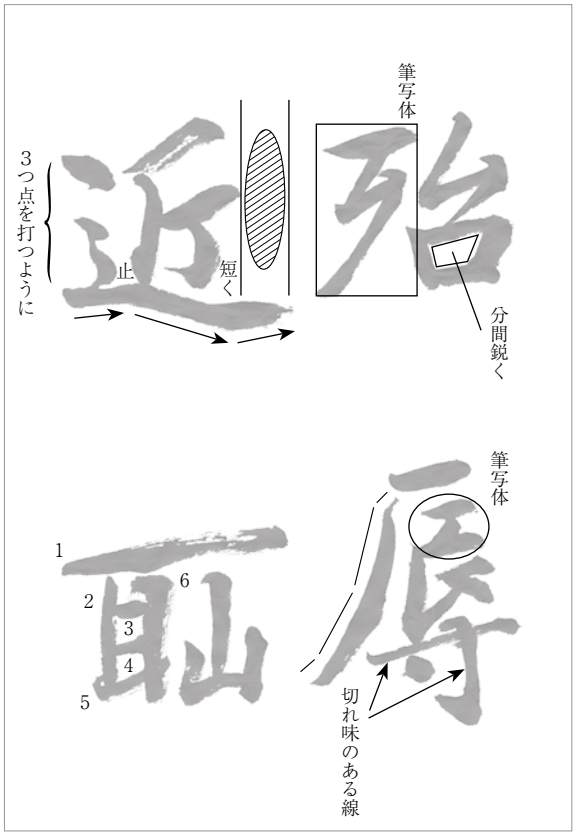
漢字半紙　五段～準初段（真草千字文）



（石橋鯉城）

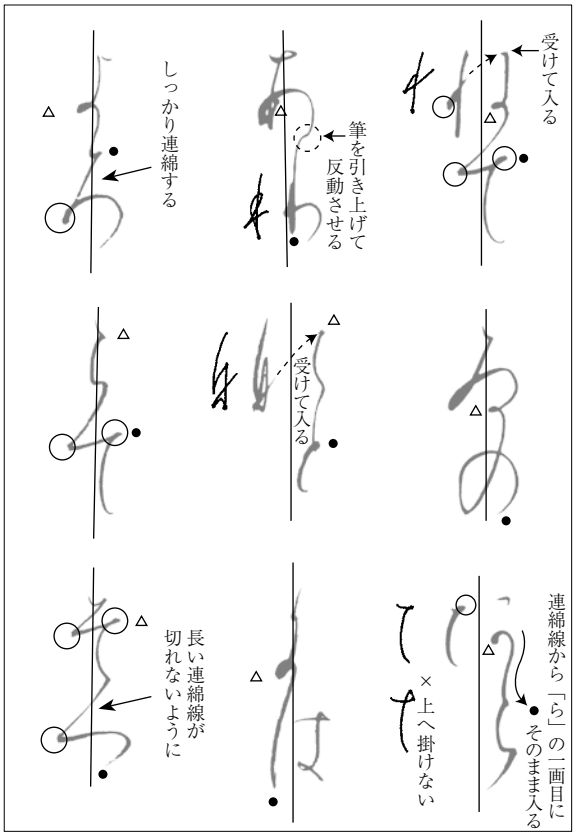
今月の出品期間
9月29日（木）～10月12日（水）必着

漢字半紙　1級～5級（真草千字文）



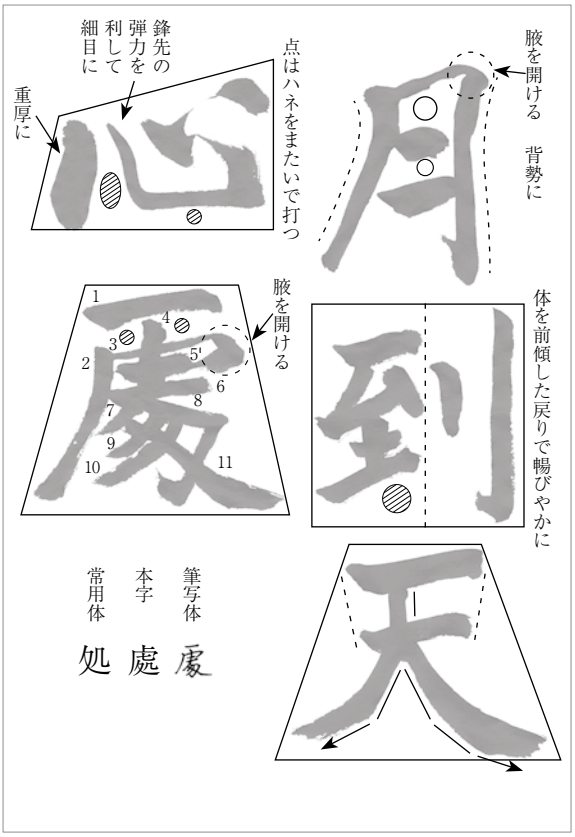
（石橋鯉城）

かな半紙　6級～10級



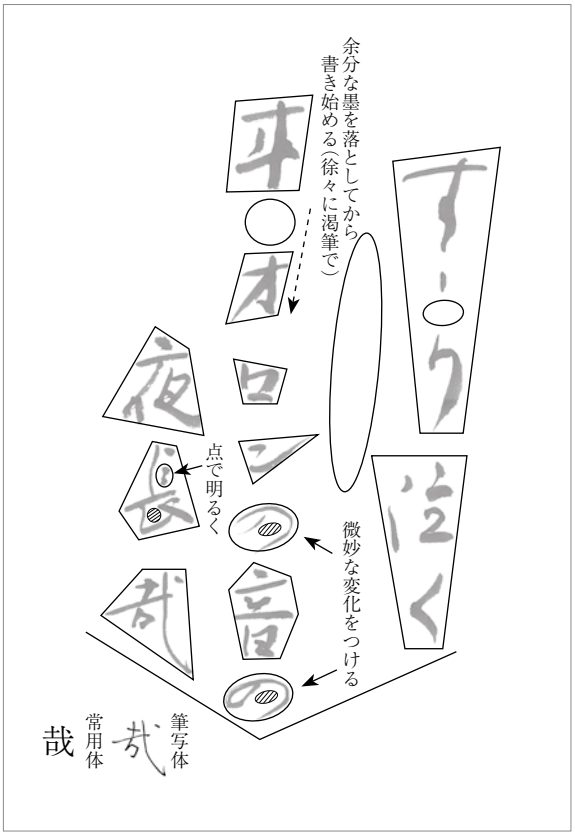
（川島史子）

漢字半紙　6級～10級



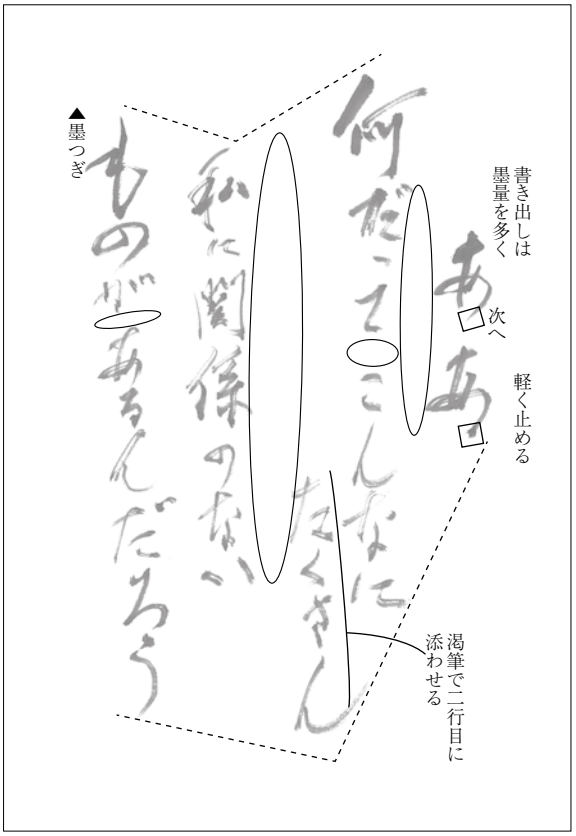
（石橋鯉城）

新和様半紙　1級～10級



（石橋鯉城）

新和様半紙　五段～準初段



（永井香樹）

漢字条幅　五段～準初段

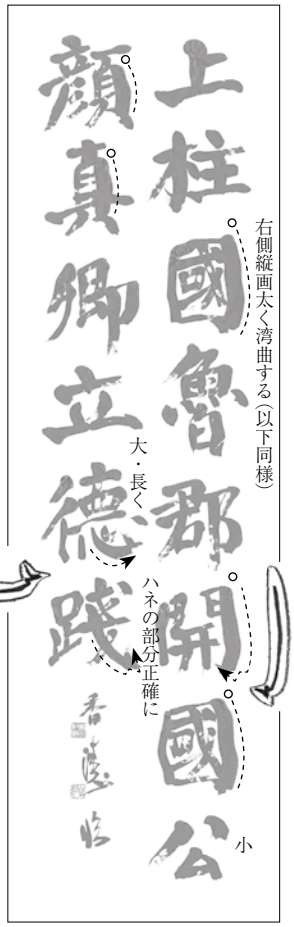
（林田香濤）

作品を構築していく上で、各行の芯（柱のようなもの）をしっかりさせることは大切であろう。今回はそのことを意識しながら、颯爽とした律動を目指した。

○リズムは終りまでブレずに貫通しているだろうか。

○その貫通力は弱くはないだろうか。

〈用具・用材〉
筆＝和筆・羊毫筆　墨＝和墨・油煙
紙＝中国画仙紙



漢字条幅　1級～10級

（小久保嶺石）

○半切五文字作品として適切な筆のサイズや墨量を知る。

○それぞれの文字の大きさの見当をつけて、バランス良く紙面に収める。本文を書いた筆で落款を入れる。

對…対の本字。偏の中心にある「ソ」を省略している。

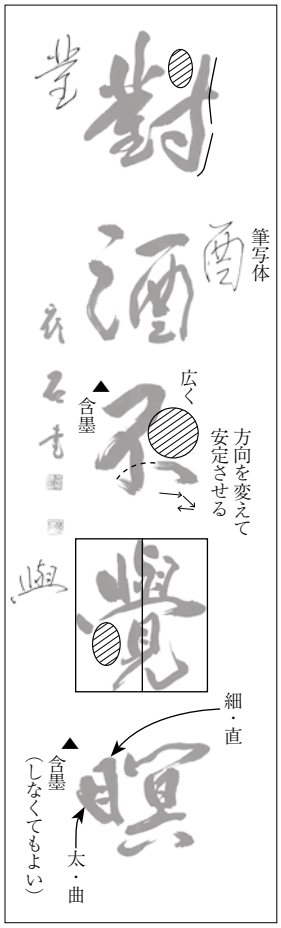
酒…「酉」は筆写体。骨力を効かせた細線で勁さと動きを出す。

不…含墨し、重厚な線でゆっくりと運筆する。最終画は前の画からの筆脈を大事にして、包み込むように筆の方向を変えて安定させる。

覺…覚の本字。冠は左から、タテ・タテ・与・ヨ・ワの順に。見は右よりに収める。

暝…僅かに含墨し、「目」の縦画に変化を付ける。終わりの「ハ」は丁寧に運筆して安定させる。

〈用具・用材〉
筆＝和筆・羊毫中鋒　墨＝和墨
紙＝中国画仙紙

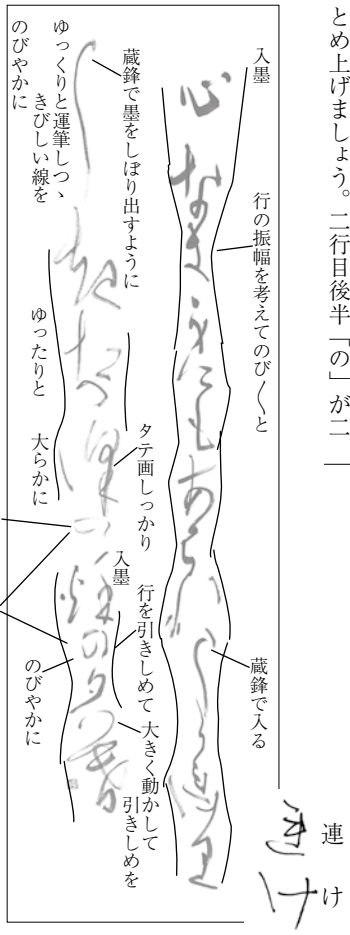


かな条幅　五段～準初段

（中村清徳）

書き出し「心」を漢字で入墨、あと変体かなを交へつゝ一行目は淡々とかきましょう。二行目、一行目の「心」を意識しつゝ、墨色の変化を考えてのび〳〵と「し起」を書き上げましょう。そのあとは漢字行草を交えつゝ字幅の広がりを考えて、作品をまとめ上げましょう。二行目後半「の」が二字続きますが、形の変化を考えつゝ、同じ「の」を書きました。

〈用具・用材〉
筆＝かな条幅筆　墨＝和墨
紙＝和画箋



かな条幅　1級～10級

（内堀信嶺）

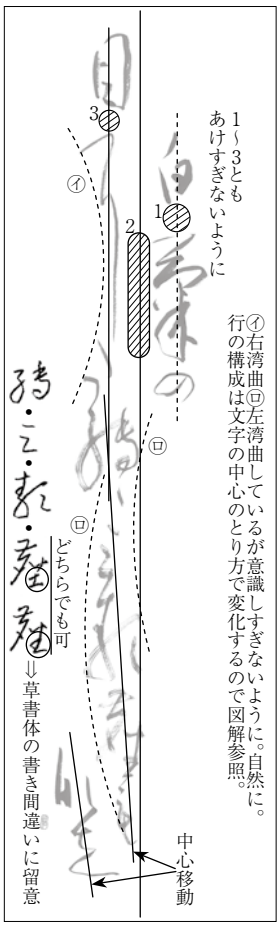
○「白」の書き出しの位置で殆んど全体が決まるので慎重に。

○特に行間を広くし過ぎるとまとめ難くなると思います。

○「白」以下は墨量に留意。かすれを求めてみて下さい。

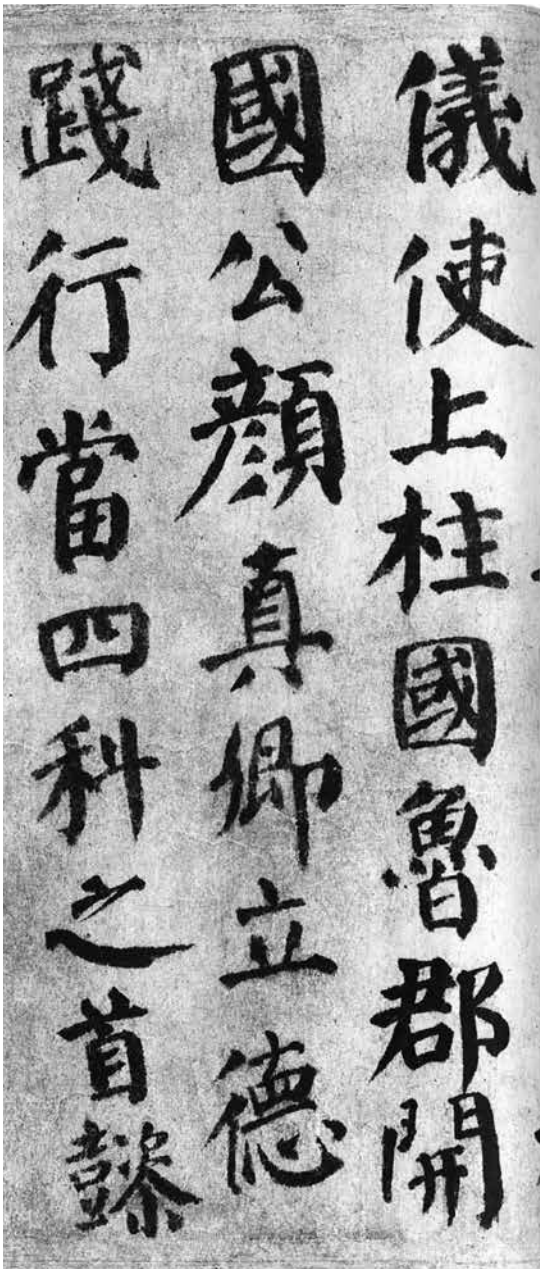
○「多轉」からの中心移動で、文字が傾きすぎないよう注意。

〈用具・用材〉
筆＝華邨中　墨＝和墨
紙＝かな用画仙



『建中告身帖』P.16　漢字条幅（五段～準初段）

建中元年（七八〇）八月、顔真卿（七〇九～七八五）が太子少師の官職を授かったときの告身（辞令書）で、顔真卿晩年の自書と言われている。「自書告身」とも。肉筆の書が台東区立書道博物館に収蔵されている。



◎9月号14頁かな条幅専門部（五段～準初段）〈9月6日（火）出品締切〉の課題に誤りがありました。ここに正しい手本を掲載し、訂正の上、お詫び申し上げます。

かな条幅　専門部（五段～準初段＝昇段課題）　参考手本　※変体がなの使用、漢字・かなの書き換え自由　（用紙　かな用画仙紙半折・たて136㎝×よこ35㎝）

中村清徳書

いそのかみ古きすみかへ分け入れば　庭の浅茅に露ぞこぼるる

〈読み〉い楚の上ふる幾住家へわ介いれ八　庭の浅茅二つ遊所こ本るる　〈出典〉山家集（西行）　岩波文庫　佐佐木信綱校訂

〈大意〉生い茂った草を踏み分けてすっかり古びてしまった住居に入っていくと、庭一面に生えた浅茅に露がこぼれるよ。

〈誤〉浅芽→〈正〉浅茅

◆次号11月号課題予告

かな半紙

五段～準初段…このう堂はある人　ならのみ可どの御（歌）とな無万う春
を利て見者お遅ぞ志ぬべ支あき盤
支の要堂毛たわわに於遺流しらつゆ
〈関戸本古今集〉

1級～5級……ぬれてほ春や末ちの支久能つゆの末に
い可て可王れ盤ちよをへぬらん　素性
〈古今和　歌集　巻第四　秋歌上223〉
〈素性法師〉

6級～10級……けれ　や那　むき　可万　こと　那久
りぬ　けれ　末る
〈粘葉本和漢朗詠集　553〉
〈梅雪かな帖　上〉

新和様半紙

五段～準初段…砂漠にはなにもない、その人自身の反省だけがあるのだ　（ジョン・スコール）

1級～10級……凩に早鐘つくや増上寺　（夏目漱石）

漢字条幅

五段～準初段…未定

1級～10級……醉起歩溪月　（李白）

かな条幅

五段～準初段…なか〳〵に夢に嬉しきあふことはうつつに物をおもふなりけり

1級～10級……山は暮れて野は黄昏の薄かな　（与謝蕪村）

新和様条幅

五段～準初段…白珠の大き冠のくだけては落つると鳴りぬ遠き雷　（窪田空穂）

※課題は変更することがあります。
※会友～準六段の課題予告は2頁をご覧下さい。